

**12月例会  
当尾の里を訪ねて  
八木順一**

前日までの寒い、そして冷たいほどの天候がこの日は一転、温かいそして穏やかな日和になりました。加茂駅に集合した人、また直接岩船寺に参集した人とそれぞれでしたが、合計25名のメンバーが当尾の里の一日のハイキングを十分堪能しました。

加茂駅発10時14分のコミュニティバスに乗り込み、最初の目的地「岩船寺」に到着。もう12月というのに、当尾の里は、まだ晩秋の風情を感じさせてくれましたが、さすが気温は低く岩船寺の庭園の池には氷……。平地とは違う、とびっくりしました。そして、最初三重塔や境内の庭園を散策したのち、本堂で「植村」住職さんから岩船寺の縁起や成り立ち等を聞き、本尊阿弥陀如来立像や普賢菩薩騎象像を含めて多くの仏像を拝観しました。お話も大変興味深かったのですが、やはり素晴らしい仏像をゆっくり目の前で見れたことが一番の収穫ではなかったか、と思えました。

次に山門から石仏をめぐり山道に出ました。ミロクの辻(弥勒仏線彫磨崖仏)やワ



ライ仏(阿弥陀三尊磨崖仏)をはじめとして、カラスの壺二尊(阿弥陀地蔵磨崖仏)、アタゴ灯籠、そして藪の中三仏磨崖仏等の多くの石仏を見て回りましたが、ゆっくりとこれらの仏様を温かい日和の中でじっくり見れて良かった、という声が多く聞かれました。石仏の里というだけの仏様の数に本当に驚かされましたが、これだけでも数ある仏様の中のほんの一部とか……。しかも一体一体が笑ったり、怒ったりの個性ある表情の仏様。これだけでも参加者の興味や関心を引くのに十分でした。「またゆっくりここに来たいね。」と思いました。

昼食を温かい広場でとったあと、最後の浄瑠璃寺に。明るい日差しの中で見る本堂や三重塔、そして庭園もいつになく素晴らしく、美しい神々しいほどの浄瑠璃寺を見ることができました。ここでは、本会会員の川井さんが、このお寺の縁起や浄土について、またわかりにくい九品印(浄瑠璃寺の別名九体寺の名前の由来)も具体的な話を交えながらお話をしてくださいました。その後、それぞれ庭園



や三重塔を見学・散策したり、また本堂に入って九体の仏様に対面したりして時間を過ごしましたが、特に本堂内部のほの暗い中に座っておられる仏様から醸し出される雰囲気素晴らしさは、えも言われないものでした。明るい外の雰囲気と対比してのうす暗さがこういった感覚を生み出したものだ、と実感しました。浄瑠璃寺はもちろんのこと、「ここ当尾にもう一度来てみよう。」といった参加者の声も多数聞かれました。

帰路は、奈良交通バスで直接JR奈良駅へ。ここで最後のまとめをして、12月例会を無事終了しましたが、事故もなく、素晴らしい日和に恵まれたことが一番の収穫でした。



